2．学部授業科目

授業科目名（英語表記）	不登校・ひきこもりへの理解と支援：当事者に寄り添って （Understanding and Supporting for School Refusal and Hikikomori）		
単位数	2（学部生のみ）	**授業形態**	講義
担当教員	山﨑　由可里、 舩越　勝、 則定　百合子、 森　麻友子、 竹澤　大史、 北岡　大輔		
開講	岸和田サテライト	**区分**	学部開放科目
実施日・時間	第1回：4月12日(土)　13：00～17：00	第4回：5月17日(土)　13：00～17：00	
	第2回：4月19日(土)　13：00～17：00	第5回：5月24日(土)　13：00～17：00	
	第3回：5月10日(土)　13：00～17：00	第6回：5月31日(土)　13：00～17：00	

【授業の概要・ねらい】

小･中学校の不登校児童生徒数は、2022年度に全国で約30万人、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は31.7人に達し、10年連続で増加し、過去最多を更新した。それにともない、保護者や教師を中心に、その適切な対応の仕方について思い悩む人の数も大きく増加している。加えて、8050問題など、成人期以降の引きこもりなどについても社会問題化している。この授業では、小学生から成人までの不登校や引きこもりに対する理解を深めるとともに、当事者(不登校、引きこもり経験者)、教員、サポートする市民、行政などの関係者の生の声や取り組みに触れることを通して、当事者への理解を深め、支援の受け方や仕方について、学び、実践し、支援を必要とする方々への支援につながる力を身につけることを目的としている。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション・不登校・ひきこもりの現在
当事者(不登校・引きこもり経験者)の実体験を伺います。その後、当事者の方に加え、長年、第一線で取り組んできた専門家と実践家によるパネルディスカッション形式で現状や課題を明らかにします。
和歌山大学教育学部　山﨑 由可里教授、和歌山大学教育学部　舩越 勝教授
ゲストスピーカー：和歌山大学　堀内 秀雄元副学長　秋桜高等学校　浦田 直樹校長
社会福祉法人一麦会　麦の郷　利用者

第2回　先生の支援のあり方、学校と家庭のかかわり方を考える
教員は、クラスの中で、不登校の子どもとどのように関わればよいのか、不登校児のいるクラスをどのように学級経営していくのが良いのか、そしてまわりの教員はどのように支援をしていくのが良いのかを考えます。また、不登校の子どもの親と学校は、どのように関わっていくのが良いかについても考えます。
和歌山大学教育学部　舩越 勝教授
ゲストスピーカー：京都市立嵯峨小学校　岩本 訓典教諭

第3回　不登校・ひきこもりに至る心理的プロセスと背景
子どもがなぜ、学校に行きたがらなくなったり、ひきこもったりするのかを、臨床心理学の側面からひも解きます。
和歌山大学教育学部　則定 百合子准教授
ゲストスピーカー：特定非営利法人ココまな　土居 倖実代表

第4回　大学生のひきこもりの原因とその対処について
大学生の不登校・ひきこもりの実態について理解を深めるとともに、実践的な対応方法や支援策を学びます。また、その原因や背景を多角的に考察し、学生支援における課題解決力を養います。
和歌山大学　キャンパスライフ・健康支援センター　副センター長　森 麻友子准教授
ゲストスピーカー：公認心理士　上安 涼子氏

第5回　発達障害のある方の家族への相談支援、心理的な支援について
発達障害のある方の家族への相談支援、心理的な支援について、施策から具体的な取り組みについて考えます。
和歌山大学教職大学院　竹澤 大史准教授
ゲストスピーカー：ペアレントメンターとして活動されている方

第6回　不登校等二次障害を呈する子どもへの教育的支援・講義のまとめ
発達障害を背景とした不登校等二次障害について、実例を交えながら教育的支援の在り方を考えます。また、授業の後半では、これまでの講義を振り返り、まとめます。
和歌山大学教育学部　山﨑 由可里教授、和歌山大学教育学部　北岡 大輔講師
ゲストスピーカー：和歌山県立紀伊コスモス支援学校　西田 涼教諭

【到達目標】

・社会問題としての不登校やひきこもりの背景と現状について、説明することができる。
・ケースに合わせて、不登校やひきこもりの当事者に対する理解・支援を具体例とともに提案することができる。

【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】

授業ごとの目標に対する達成度評価を基本とし、授業の関わり方・課題への取り組み方などを含めた総合評価を行う。

【履修上の注意・メッセージ】

授業テーマに関連する社会的な出来事に関心を持ち、情報収集、理解に努めてください。

【履修する上で必要な事項】

配当された授業を受講し、積極的に参加すること。

【授業時間外学修についての指示】

事前・事後学習については、その都度連絡する。